

今度山陵御締向御普請等の御用被仰付候處、是迄御普請、其外御手傳の御用被仰付候振合と違ひ、御普請等仕方見込に御任せ相成り、國々へ家來差遣し爲仕立候事にも候間、重役の内、重立引受取扱候者無之候ては、御用辨も立間敷儀に付、右和三郎へ取扱申付、萬端龜畧の儀無之様、大切に爲取計被申候様被存候事、

間瀬和三郎義、諸大夫被仰付、戸田家一門の事故、戸田大和守と受領有之、

戸田越前守へ、内願の趣達御聽御機嫌に被思召、今度出張御締向御普請御用被仰付候、右芙蓉間老中列座、周防守○松平康直申渡之、

前書間瀬和三郎、戸田大和守と改め、追て山陵奉行を命せらる、歳俸米二百人扶持、萬石以上格、慶應二丙寅に至り、二百人扶持返上、宇津宮俵高の内七千石、新田三千石、都合一萬石の分地、諸侯の列に入る、

〔戸田忠友家記〕山陵修營ハ、年序ヲ經ズ速成スベク、且戸田和三郎へ奉行仰出サレ候旨御沙汰、國々山陵荒廢ニ及、多年叡慮不安ニ付、御修復ノ儀被仰立候處、去後八月遵奉、御修復御用、戸田越前守へ被申付候旨言上有之、御満足思召候、右御請ノ上ハ、不經年序、速成就有之度被思召候、頃日越前守家族、戸田和三郎上京ノ旨被聞食候ニ付、於官家夫々御用掛被仰付候、然ル上ハ、武邊ノ方奉行無之候テハ、御不都合ノ儀被思召、幸ヒ越前守家族ノ儀ニモ候ヘバ、右戸田和三郎へ奉行被仰出候、仍此段達候事、

十月○文久二年  
十月廿二日

戸田大和守諸大夫格ヲ命ゼラル、達文久二年十月廿九日

今度山陵御取締奉行被仰付候ニ付テハ、御所向御扱方、諸大夫格今日ヨリ被仰付候事、  
十月廿九日